



みんなの身近にある
「3R」を考えよう！

あらかわりサイクルセンターの 現場から

あらかわ
リサイクルセンター

1階は中間処理工場。2階では
処理工程の見学ができます。

あらかわりサイクルセンター



びん



資源回収ポイント

回収可能なびんは飲料用だけ。中身は水ですぐ、ラベルは無理にはがさなくてもOK。

リサイクルセンターには1日約5tのびんが運ばれます。びんには、砕いて再生されるワンウェイびんと、洗って繰り返し使うリターナブルびんがあります。ここではまず2つを分別し、ワンウェイびんを細かく砕きます。



コンベアに載せて、人の手で「無色」「茶」「緑」「その他」の4色に分けます

青い4台の機械は破砕機。色別に分かれたびんをこの中で砕いて「カレット」にします

約60%も再びびんに生まれ変わるんだね！
北村真理乃さん



「カレット」は再資源化工場に送られ、再加工されます



道路の素材

リサイクルびん

缶



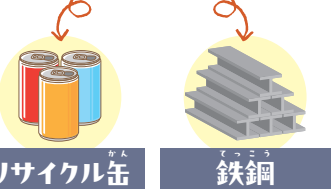
資源回収ポイント

中身が残らないようすいで空にしましょう。無理につぶさなくてもOK。



1日約2tの缶がここに運ばれます。鉄でできたスチール缶とアルミでできたアルミ缶の2種類があり、分けてそれぞれ処理します。新しく天然資源を使うより缶を再利用するほうがエネルギー消費量を節約できます。

積んで運べるように四角くするんだね
鈴木凜喜さん



ペットボトル



資源回収ポイント

キャップとラベルを外しましょう。回収できるのは無色透明だけで、色つきは燃やすごみに！

ポリエチレンテレフタレートというプラスチックからできるペットボトル。このリサイクルセンターには1日約3tが家庭から集められ、圧縮処理をすると約150個分のかたまり(ベール)になります。

回収された無色透明のペットボトルがヤードに集められます



圧縮機でつぶされて、ベールになります



異物が混ざっていないか確認しながらコンベアにペットボトルを載せます



キャップを外さないとつぶれないんだよ
古田風雅さん

食品トレイ



資源回収ポイント

食品トレイに混入物があると、リサイクルする際に質が低下します。汚れを落とし、シールなどはがしましょう。

1つのネットに約1kg入ったトレイ。熱処理するためにまず乾かします



ジュニア記者が特別に作業を体験。混入物を取り除きコンベアに送ります



食品トレイとは、発泡スチロールなどでできている食品の包装容器のこと。ここには1日100kg以上集まります。機械で細かく砕かれ、180℃の熱で溶かされて、板状のかたまり(インゴット)になります。

つまようじが刺さるのが食品トレイだよ！
稲川咲幸さん



いざ リサイクルセンターで体験！ 廃材でこんなモノができました！

サンドブラスト

サンド=砂、ブラスト=吹きつける、という意味。特殊な機械でびんに砂(研磨剤)を吹きつけ、表面を削って加工します。好きな模様や絵をつけることができます。



イラストシールをびんのどこに貼るかデザインを考えます



細かい模様もついて砂で削られた表面が白くなります

廃食油キャンドル

回収された天ぷら油などの廃食油のうち、未使用のものをを使って作ります。クレヨンを溶かして色付けし、アロマオイルを加えるので、香りのよいキャンドルになります。



鍋に入れた油を約80℃に温め、凝固剤を入れて固めます



びんに流して芯をつけて完成！色の層がきれいに出ました

荒川区での取り組み

①プラスチック分別回収が始まります！

区では、10月から全ての地域でプラスチックの分別回収を開始します。分別回収することで、ごみの量を減らし、最終処分場(埋め立て地)を長く使うことができます。また、地球温暖化の原因の一つである温室効果ガスを減らし、石油資源の有効利用につながります。



出典：日本容器包装リサイクル協会

②廃食油を活用しています

家庭での使用済み、賞味期限切れなどの食用油を、現在、国産の航空燃料(SAF)として活用しています。他にも、アロマキャンドル作りにも使用することができます。区内には、回収している施設がありますので、皆さんも協力ください！



▲廃食油キャンドル

回収施設はこちらから→

あらかわりサイクルセンター〇×クイズ

- Q1 びんの資源回収の時は、ラベルをはがして出さなくてもよいです。
- Q2 日本では、ペットボトルが再びペットボトルに生まれ変わる割合は現在10%です。
- Q3 リサイクルできる食品トレイが確かめるには、つまようじで刺してみると分かります。

答えは4面にあります